

きらっとヒカル  
北秋田の企業 Vol.10

ニツ井パネル株式会社

何をしている会社？

乾燥木材を海外からコンテナで輸入し、大野台工業団地にて「集成材」と呼ばれる住宅の柱や梁を製造・販売しています。販路を関東・東北6県及び北海道の東日本にて網羅しており、きめ細やかなサービスを展開するよう日々心掛けています。

会社のアピールポイントは？

国内の集成材メーカーとして10指に入る生産量を誇っており、今後も体制を整えながら東日本を中心とするお客様にきめ細やかなサービスを展開できるように頑張っていきます。また、改善を織り込みながら日々業務の検証を繰り返し、チームワークで取り組む会社です。



【会社概要】  
◆所在地 北秋田市川井字横呑沢5-130  
◆主な事業 住宅資材・集成材の製造販売  
◆従業員数 34人  
◆電話番号 0186-78-2132



若手社員の声

プレスライン



切削ライン



三浦 智也さん(29)

入社5年目で、生産・出荷管理統括をしています。自分の仕事とプラスアルファで外国からの木材貨物の管理や、他部署の連携とフォローをするように心がけています。

ショー  
コリガン



私が見た北秋田

Kitaakita from My Eyes NO.19

「書写の時間」

秋田県に来ているALT(外国人の英語教師)のほとんどは「JET(Japan Exchange and Teaching)プログラム」によって招かれています。私もその一人です。JETプログラムの正式な和訳は「外国語青年招致事業」となっていますが、英語では「JET」というそれぞれ文字が言葉の頭文字で、その中の「E」は「交換・交流」を意味しています(今回はいきなりカタカナ・ローマ字だらけで始めてすみません!)

最近に増えているケースは、母国で日本語を学習してからALTとして来日することです。私もまたそのうちの一人です。こういう私が小学校で「交換・交流」と「T」の「教育」とい

う2つの任務を受けました。自分の日本語の学習を思い出しながら小学校の外国語活動に入りましたが、交流として、逆に児童に先生役を与えようと思い、書写の時間に伺いました。

ちなみに、今回の写真は昨年コムコムで実施したALT研修会で撮影したものです。日本の文化との交流活動として、ALTの皆さんが書道の先生から教えを受けました。



【移住体験居室】



【シェアハウス付き移住定住ネットワークセンター】



【移住体験利用者共有スペース】

移住・定住ネットワークセンター完成  
移住体験や情報発信、相談活動の拠点に

移住定住をさらに推進

北秋田市移住定住ネットワークセンターが、昨年末に完成し運用を開始しました。

この施設は、旧阿仁町が平成3年に建設した「若者定住住宅(2棟4世帯分)」を、国の地方創生拠点整備交付金を活用し、市の最重要課題である移住定住事業を促進するための拠点として改築したものです。

2棟のうち1棟は、2世帯分を1つに統合した「シェアハウス付き移住定住ネットワークセンター(A棟)」に、もう1棟は1世帯分を「バリアフリー対応型移住体験住宅(B棟)」として整備しました。

A棟は、移住専門の地域おこし協力隊員が、移住体験や移住後の仕事探しの調整や情報発信、さらには移住定住に関するワンストップの相談窓口を担う事務スペースのほか、2階に併設するシェアハウス型移住体験居室(4室)の利用者が集う共有部分として活用されます。



【相談・事務スペース】

またB棟は、室内のバリアフリー化を行ったほか、入り口に段差解消機を取り付けられる仕様としており、車椅子の方でも安心して利用できる移住体験施設となっています。このほか、家族での移住体験も可能な移住体験住宅(1棟1世帯分・平成28年度に改築済)とあわせて、同じ敷地内でさまざまなニーズや段階に対応した移住体験が可能となりました。

今後は同センターを活用しながら、移住希望者に対して、地域おこし協力隊員や既移住者及び地域住民などによるサポートや交流事業などを行いながら、当市への円滑な移住を支援します。